

読者アンケート

「皆さまの声」に支えられています！

『水の文化』発刊後に寄せられる皆さまからの声は、センターの担当者が毎号すべて目を通しています。「今回の特集はどう受け止められたのだろうか?」「どの記事について特に反響が大きいのか?」などとても参考になるからです。

特に73号の特集「芸術と水」は、これまで扱っていない分野であることから編集についてはかなり苦勞しましたし、皆さまがどう受け止めてくださるか不安でした。しかし、アンケートには「今回の切り口は興味深く、わくわくしました」「ついに芸術にたどり着いたのですね。待ちましたという感じ」「水とアートを結びつける発想が素晴らしい」など好意的なご意見が多く、編集部一同喜ぶと同時に安堵しました。

また、連載「食の風土記」については以前から多くのご意見や情報が寄せられています。72号でご紹介した「えご」、そして今号でご紹介した「がんす」は、いずれも読者から提供いただいた情報がきっかけとなり、編集部でリサーチし、取材に至ったものです。情報のご提供ありがとうございます。

60号の特集「水の守人」で取材させていただいた福井工業大学教授の笠井利浩さん、61号の特集「水が語る佐渡」でお世話になった岩首昇竜棚田の大石惣一郎さんに関する73号での近況報告についても反響がありました。下記のように66号で訪ねた青鬼堰の「堰普請」に編集部も参加しました。以前取材した人や地域のその後を知りたいというご要望があれば、ぜひ再訪していきたいと思っています。

今後もご意見、ご要望などさまざまな声をぜひお寄せください！



えご

くるみを刻んで散らしたえご（甘いタイプ）。右は港でえごを天日干しているところ



がんす

広島県呉市で親しまれている練り物フライ「がんす」。右は海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」



再訪

青鬼堰の「堰普請」に参加しました！



一人数mずつ作業し、終わったら他の人たちを追い越して先頭に出てまた作業する。左上は青鬼集落の高台から望む白馬連峰

2023年4月29日、編集部は長野県白馬村の青鬼堰で行なわれた「堰普請」に参加しました。青鬼堰は66号の特集「地域で受け継ぐ水遺産」で取材させていただいた山腹水路です。当日は朝8時すぎから作業を開始。地元の方々のほか、行政や地域ボランティア、信州大学農学部 of 学生などが駆けつけ、総勢およそ50名がヘルメットをかぶりスコップを携えて、水路に溜まった土砂や葉をさらいました。

白馬連峰がくっきり見える晴天のなか、ケガ人もなく正午前には無事終了。参加者は「お善鬼の館」で青鬼集落の棚田で育てた「白馬紫米」のおにぎり、甘酒、飲みものなどをいただき解散となりました。

半日に満たない作業でしたが、江戸時代末期につくられた貴重な水路を守りたいという思いを抱いた人びととともに汗を流し、よい経験をさせていただきました。

再会

東京ヘッドオフィスに
熊本市環境推進部の永田努さん来訪

70号の特集「みんなでつなぐ水——火の国 水の国 熊本」で取材させていただき、また2022年4月に熊本で行なわれた「第4回アジア・太平洋水サミット」に当センターが出展した際にもお世話になった熊本市環境局環境推進部 部長の永田努さんが、ミツカン東京ヘッドオフィスを来訪くださいました。

永田さんは、2023年3月21～24日に米国・ニューヨークの国連本部で行なわれた「国連水会議2023」および「第6回 国連水と災害に関する特別会合」に参加。国連水会議でもユース、特に高校生たちの活動に焦点が当たったそうです。「次代を担う高校生たちに、発表の機会をどんどん与えることが世界の主流になりつつあります」と教えてくれました。

また、「第4回アジア・太平洋水サミット」で上映されたユース水フォーラム・九州による「水をテーマとした動画作品」が国連水会議でも好評を博したとのこと。動画作品は今年も全国的に募集を開始していて「そうしたことが自然と継続できるような環境になってきていますし、この取り組みは続けないといけませんね」と話してくれました。

当センターも若い世代を後押しするような取り組みを考えていきたいと心を新たにしました。



永田 努さん
熊本市環境推進部
部長

【お知らせ】 連載「水の文化書誌」と「Go! Go! 109水系」は諸事情により休載いたします。

DVDプレゼント!

大人も泣ける!? アニメーション映画
『すずめの戸締まり』

74号の特集記事で大人が泣くこと＝「アダルトクライング」について語っていただいた石井悠紀子さん (pp.20-21) に、最近観て泣いた映画をお聞きすると、新海誠監督の長編アニメーション『すずめの戸締まり』を挙げられました。

ただし、大人でも泣ける映像や書籍は個人差が大きいそうです。「実験していると、皆さんが泣けるような映画や書籍というのはなかなか難しいと感じます。テーマとしては『愛』や『死』、そして書籍よりも映画や音楽の方が泣きを誘発しやすいと思います」と石井さんは言います。

今回はアニメーション映画『すずめの戸締まり』DVDスタンダード・エディションを抽選で3名の読者にプレゼントいたします。右の「74号アンケート」にWebから回答のうえ、ご応募ください。応募期限は2023年7月31日(月)とさせていただきます。なお、プレゼントの発送は2023年9月下旬となります。

新海誠監督
アニメーション映画
『すずめの戸締まり』

DVD
スタンダード・エディション

3名



石井悠紀子さん

皆さまからの感想、
情報をお待ちしています!

『水の文化』74号のアンケートにご協力ください。機関誌『水の文化』をより充実したものにするため参考とさせていただきます。

回答はこちらから



<https://forms.office.com/r/XRJN21tA77>

アンケート用紙をお持ちの方は
下記へご返信ください。

FAX: 03 (6784) 3056

編集後記

部活動の最中に、中学生の時は水を自由に飲めず、高校生になると喉が渴いた時はマネージャーが用意してくれたドリンクを飲みただけ口にしていただけを思い出しました。今回、運動時の水の摂り方の変遷を知ることができ、また、パフォーマンスを高める水分の補給、吸収を研究されている方のお話を伺い、また一つこれまでとは違う視点で水への興味関心が高まった気がします。(五)

年々夏の暑さが過酷になる中、子供の少年野球の当番時には、素人ながら熱中症予防に目を光らせなくてはならず緊張感を持っていた。また、高齢の母と同居しているので、暑いのに「暑くないから冷房はつけない」と固辞されることに、一抹の心配を感じていた。なので、今号は私にとってはありがたい知識が満載で、即生活に活用していきたい。まずはアイスラリーに挑戦です!(松)

先日、娘の運動会がありました。とても暑い日で水筒に入れたお茶が無くなったらどうするのだろうと保護者席から見ていると、校庭にある水道へ水筒を持って子ども達が水の補給に行っていました。さらに「保護者のみなさん、水分補給をしてください」とアナウンスが。子どもたちは自分でこまめに水分補給ができるようになっていて、学校教育の有難さを感じた出来事でありました。(飯)

1993年のJリーグ開幕は、野球好きな私が初めてサッカーに興味を持った年だった。日本の予選敗退は残念だったが、翌年のワールドカップも楽しみにしていた。当時の鮮明とはいえないブラウン管越しの映像でも、炎天下での暑さや競技の過酷さがひしひしと伝わってきたのを覚えている。その決勝、最後のPKを外したロベルト・パッジョの満身創痍な姿が、今でも脳裏に焼きついて離れない。(刀)

不幸にも「運動中に水を飲むな」の遠因とされた貝原益軒の『養生訓』。頁を繰ると真つ当なことばかり書いてある。なかには「郷土の水によって人の天性が変わるわけであるから、水は一ばんえらばなければいけない」という一節も。以前なら突飛な考えだと思ったかもしれないが、山田陽介さんが明かしたように、水に関して10日前の自分と今の自分は「別人」なのだ。貝原益軒の慧眼には恐れ入る。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第74号

ホームページアドレス

<https://www.mizukn.gr.jp/>

発行日

2023年(令和5年)6月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授

陣内秀信 法政大学名誉教授

鳥越皓之 大手前大学教授

制作

浦本五郎

松本裕佳

小林夕夏

久保悦史

飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

蔵田 豊 デザイン

執筆

佐々木 聖 (pp.24-29)

手塚ひとみ (pp.20-21)

開 洋美 (pp.16-19)

前川太一郎 (pp.6-15, pp.30-31, pp.42-43)

若井 憲 (pp.22-23)

撮影

川本聖哉 (pp.16-19)

藤牧徹也 (pp.12-15, pp.36-41)

印刷

中埜総合印刷株式会社

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578